

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	94	実施計画番号	50	
事務事業名	市民文化祭支援、文化団体への補助金交付		事業開始年度	昭和59年度
担当課名	スポーツ・生涯学習課		事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等	十和田市補助金等に関する規則	関連事務事業		
背景や経緯等	文化芸術に対する理解や関心が高まってきており、鑑賞・参加・創造することができる環境づくりのための文化芸術活動への支援の必要性が求められている。			
事務事業の目的	豊かで潤いのある暮らしの実現のため、文化芸術活動への積極的な支援を行い、文化の向上及び活性化を			
実施状況	文化祭実行委員会と連携し、市民文化祭を開催している。各活動振興補助金として、文化祭実行委員会に312千円、文化協会に200千円、民俗芸能協会76千円の3団体に交付している。			

【人件費の推移】

		24年度実績	25年度実績	26年度計画
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	8	8	8
	人件費(千円)	288	288	288
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

【事業費の推移】

事業費合計(千円)	24年度実績	25年度実績	26年度計画
	588	588	588
うち一般財源	588	588	588
うち国県支出金			
うち地方債			
うちその他			

【指標】

活動指標	活動指標名①	市民文化祭開催日数				
	計算式等	単位	24年度実績	25年度実績	26年度計画	
		日	5	3	3	
	活動指標名②	市民文化祭参観者				
	計算式等	単位	24年度実績	25年度実績	26年度計画	
		人	1,076	1,113	1,500	
成果指標	成果指標名①	市民文化祭参観者				
	計算式等	単位	24年度	25年度	26年度	
			目標値	4,500	3,000	3,000
			実績値	2,833	4,457	
			達成度(%)	63%	149%	
	成果指標名②					
		計算式等	単位	24年度	25年度	26年度
			目標値			
			実績値			
			達成度(%)			

十和田市事務事業評価シート

整理No	94
計画No	50

【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由	
妥当性	① 市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	和59年		2	存在意義の見直しの余地 2 / 4 市民文化祭は、市民の文化芸術活動の観賞や発表の機会として欠かせない事業であり、市が積極的に支援する必要がある。文化団体が継続して活動を維持していくためには当面補助金の交付も必要である。	
	② 実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2			
有効性	③ 活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	5	成果向上の余地 1 / 6 市民文化祭の日程・会場案内等、広く市民にその内容を周知する活動方法について見直す必要がある。	
	④ 成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2			
	⑤ 事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B	1			
効率性	⑥ 事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6	コスト削減の余地 0 / 6 実行委員会を設置し運営しており、効率化を図っている。	
	⑦ 他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2			
	⑧ 民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2			
公平性	⑨ 受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	受益者負担適正化の余地 0 / 4 広く市民に観賞機会の機会や、発表の場を提供しており、公平性は保たれている。	
	⑩ 受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2			
現在の適性					17 / 20	改善の余地	3 / 20

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **17** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **3** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ⇒ **現状のまま継続**

方向性の理由
文化芸術に対する理解や関心が高まってきており、鑑賞・参加・創造することができる環境づくりのための文化芸術活動への支援は、予算の範囲内で現状のまま継続したい。
今後の具体的な取組方策と狙う効果
市民文化センターを中心に、十和田市現代美術館、新渡戸記念館や称徳館との連携も視野に入れて、市民の参加者、参観者の増を図りたい。